コミュニティービジネスから地域再生を考える
セミナー

と　き　2008年3月22日（土）午後1時30分～4時30分

ところ　高知共済会館「金鶏」

地域を元気に！

第１部

講演　赤岡青果市場のとりくみに学ぶ

演題「農家の幸せのためにー私の歩んできた道・願っていること」

講師　水田幸子さん（赤岡青果市場社長）

第２部

黒潮町におけるコミュニティビジネス研究の中間報告

「小金稼ぎが元気をつくる」

報告者　コミュニティビジネス研究チーム黒潮町研究員

畦地　和也さん　友永　公生さん

山崎　裕也さん　福岡　和加さん

報告者　コミュニティビジネス研究チーム高知大学研究員

大野　奏さん

多くの参加をお待ちしています

入場無料

主　催　社団法人　高知県自治研究センター　〒780－0862　高知市鷹匠町2－5－47　電話（088）824－0151

■講師紹介

（株）赤岡青果市場代表取締役　水田 幸子　さん

現在、高知県青果卸売市場連合会会長、全国青果卸売市場協会理事、元高知県法人会女性部会連絡協議会会長

高知県には中央卸売市場２社と地方卸売市場 11 社の青果卸売市場があるが、そのなかで赤岡青果市場は、地場産のものだけで毎年取扱高 100 億円以上をあげている。昭和 53 年の水田社長就任以来、飛躍的に業績を伸ばし、産地情勢の変化、産地の担い手が高齢化や女性化している現状を長年の生産者との交流でいち早く察知し、産地とともに生きる地方卸売市場として、全社をあげて営農支援にとりくんでいる。

具体的には、庭先集荷、無選果、バラ荷の受託、パッケージ加工、資材配達、収穫・調整のパート斡旋など広範囲に及び、全入荷量の約８割を自社集荷で占める。そのほかに無選別の裸荷を受託し、自社パッケージ加工場で一次加工により商品化する。

また「伝統的食生活を守る」「地域の特産物を守る」というスローフード運動として、地元小・中学校の学校給食の食材に、地元産野菜の提供、伝統食の給食と食文化の課外授業等に協力している。農業の担い手の高齢化と労力不足が問題、となると野菜流通の大半を占める卸売市場にとっては、重大問題であり、高齢者や女性が野菜づくりに精を出して働けるような仕組みを作って、いかにやる気を起こさせるかにかかっている、と水田社長は語る。

また、仕事こそ健康の秘訣であるし、高齢者や女性ができるだけ長く野菜を作り続けられように、「誠実と感謝」を社是としている。これらのとりくみは、2007 年 2 月の NHK「ビジネス未来人」で取り上げられたことで反響を呼び、赤岡青果市場へは視察が後を絶たない。

水田社長のとりくみは、今回の基礎研究のモデルとなるものであり、参考事例として大変興味深い。また、このようなビジネスモデルが県内に存在していることに、改めて私たちは誇りを感じなければならないのではないでしょうか。

■事例報告

黒潮町研究員　【畦地和也さん、友永公生さん、山崎裕也さん、福岡和加さん】

徳島県上勝町の「いろどり事業」の例や今回講師にお招きした赤岡青果市場の例に見られるように、働けること、その結果金銭を得ることが高齢者の生きがいや健康づくりにつながっている事例がある。

そのような事例から、高齢者のコミュニティビジネスが高齢者を元気にさせ、結果福祉や医療などの社会的コストを下げられるのではないか、という仮説をたて、高知県自治研究センターが黒潮町をフィールドに行っている基礎研究の 2007 年度の報告を行う。

■特別報告

「高齢者参加型のコミュニティビジネスについて～黒潮町での実証実験をもとに～」　　大野 奏

今回黒潮町での基礎研究は、高知大学鈴木ゼミの学生の諸君と一緒に行っている。今回４回生が卒業するにあたり、その中の一人、大野さんが研究の過程を卒論にまとめていただいたので、今回特別に報告していただく。